

選挙まであと少し、私たちは誰を選ぶのか！

「京丹後宇川の風」 広報 2 号

京丹後市のみなさん

来る 4 月 26 日の京丹後市市長選挙、市議会議員選挙が迫ってまいりました。

市長選、市議選ともに立候補予定の方々が熱心に活動されています。市長選はこれまでの市政に深く関わって来られた方 3 名と、その政策を全体として批判する方 1 名の計 4 名が、現市長の疑惑問題も絡めて大激戦の様相を呈しています。

一方、市議選の方は、20 人の定員に、現職が 10 数名、新人が 10 名余、27 人くらいになるのではと言われ、こちらも大変な戦いとなっています。自民党、公明党、共産党、立憲民主党、日本維新の会、NHK から国民を守る党、と国政選挙並みの顔ぶれが揃うというのも今回の特徴で、地方選挙では異例のことと話題になっています。

連日色鮮やかなチラシ等が届いてきますが、それらに出されている内容はバラ色のものが多く、多くある問題点にはあまり触れていません。

私たち「京丹後宇川の風」は先に広報 1 号（3/5 新聞折込）で、今回の選挙に問われる現在の京丹後市が抱える諸問題のいくつかを紹介させていただきました。

問題点はまだまだあります。今回は広報 2 号として、その続編をお示ししたいと思います。

1. 市の観光事業はうまくいっているのか？

農林漁業、機業関係、金属関係などの業種が長期的に低迷している中で、市の観光業は熱心な丹後ファンにも支えられ今後も大きく発展する可能性を持った重要な分野です。「海の京都DMO」というフレーズで府の観光政策の一翼も担って盛んに広報されています。

しかしながら、京丹後市の観光協会（現在は観光公社）は人事問題などで長らく混乱し市全体の展望をもった観光施策を進めることができきませんでした。市から多額の助成も受けており議会でも何度も問題とされましたが、一般市民には何が起きているのか分からない状態が続いていました。

海岸線を中心とした素晴らしい自然財産を持ちながら、市全体で観光客を受け入れる体制が極めて不十分です。丹後へ来られる観光客の分析をしっかりと行うとともに、地域地域で観光のために頑張っている方々や独自の取組を市は積極的に把握して伸びる分野を支援していく姿勢が必要です。

丹後町宇川地域には市の観光指定管理事業として「宇川温泉 よしのの里」という施設があり（2002 年に営業開始）、観光客にも地元の人にも親しまれてきています。ところがその温泉が去る 2 月 22 日に突然閉鎖となりました。建物の腐食が進んで危険だから大改修を行うためということです。改修の終了は 9 月末予定とのこと。観光客がたくさん来られて儲けの中心となる 5 月の連休や夏季に全くこの温泉に行けないということです。宇川地域の夏の

観光業に大きな打撃となるのは必定です。昨年のにしがき宇川店閉鎖に続くダブルパンチとなり事態は深刻です。

一体どうしてこんなことになったのか。事業者の日々の施設管理はどうなっていたのか？監督責任のある市はどういう状況把握をしていたのか？__この施設には市から「指定管理料」として年間約 1000 万円が事業者へ支払われてきています。大いに疑問と不信を抱きますが事業者や責任当局からの住民への説明は極めてお粗末なものです。

調べてみると、市の観光指定管理事業は年間収支 1000 万円を超えるものが 10 件（2018 年度）あります。その経営状況を見ると黒字のものが僅か 3 件、管理料を差し引いての純粋黒字は 1 件のみであり、相当額の管理料にもかかわらず赤字もしくは利益が管理料に届かないところがほとんどです。施設により地域により事情は様々で一概には言えませんが、地域への貢献度を勘案しながら指定管理のあり方をしっかりチェックし、結果を出しているところへの事業拡大支援も含めて総合的な施策が必要です。

京丹後で一番の成長産業となる観光業をどうしていくのか、市の姿勢と具体策が厳しく問われています。

2. 大型事業のチェックはできているのか？

最近、市の取組の杜撰さが重ねて指摘されている大宮町の「グリーンバイオ事業」は、周辺住民への騒音問題が未だ解決されず、経営も「赤字」（市が補填、事業に投入された公金は総額 2 億円以上）が続いています。3 月議会でも問題とされましたが、経営者が次々と交代し、初年度から当初の計画を外れて赤字が累積されているとのこと。商品である「木質チップ」が網野町の温泉の閉鎖で需要が減ったのが赤字要因の一つだとも聞きますが、宇川温泉の閉鎖がそれに拍車をかけるのは必定です。環境管理と経営の両面から市の具体的姿勢が問われます。

弥栄町の「エコエネルギーセンター」は持続可能な循環型コミュニティを目指し、「発電」と「液肥」の二重経済効果をもたらすとして鳴り物入りで 2009 年に発足しました。しかし、事業計画の無責任さと、発酵タンクの漏出事故などで予定事業をほとんどできないまま、2018 年に廃止が決定。2 億円以上かけて発酵タンク等を撤去、他の大きな施設はそのまま放置され事実上廃墟状態となっています。この事業は市が提案し、議会が僅差で可決して決定されたものですが、多額の公費投入のみに終わってしまいました。この責任はどこにあるのか？

市の経済活性の切り札として 2010 年に約 26 億円をかけて造成された大宮町の森本工業団地は、2018 年に 2 つの企業が誘致されたものの分譲価格は 7 億円に満たず、金利負担も重い中で市の初期投資を回収するには遙かに遠い状態です。

このように市が取り組んできたいくつかの大型事業は、本当に市民、地域の役に立っているのか、利益に繋がっているのか、大いに疑問です。その検証がなおざりにされたまま（負

の資産を抱えたまま)、新しい事業に安易に乗ることは許されません。

3, 財政は大丈夫か？

3月26日に、京丹後市の2020年度予算が可決されました。一般会計が約320億円という大きな額です。全体として4.4%減の中で、市民の貯金である基金から16億3000万円強が取り崩されています。2019年度は大きな災害も積雪もなかった中でこの額は妥当なものなのでしょうか。この基金は2004年の市発足時の111億7000万円から減少の一途をたどり年度末の残高見込は約72億4000万円になるとのことです。

市の借金にあたる市債は33億円余りで年度末の累積総額は約390億5000万円(一般会計の1.2倍)ということです。26.1%の自主財源約83億円のうち、貯金の取り崩しが約20%、一方借金が自主財源の約40%というのはどういうことなのか。「このままでは数年後には完全な財政破綻に陥るのでは?」、という指摘が議会で何度かなされていますが、「大丈夫だ、心配には当たらない!」というのが市長の答弁です。

財源が足りないという理由から様々な補助金が色々とカットされたり、逆に国保税などのように負担が増えたりしてきた経過や多くの事業経営の不振を考えると、「大丈夫」の内容は本当に「大丈夫」なのか、しっかり吟味されなければなりません。消費税アップとコロナ大不況のもとで市税等の落ち込みも予想される中、事態は楽観を許しません。

4, 「安全・安心」のチェックは十分か？

丹後町宇川の地に米軍のXバンドレーダー基地が作られ、2014年の暮れから動き出して5年以上が過ぎました。現在は大がかりな「二期工事」が進められています。この基地の建設に当たっては「市民、住民の安全・安心の確保が大前提」ということが国と市の約束です。

ところが基地の稼働から3年を経た2018年頃より、米軍、防衛省の約束違反が顕著になっています。米軍人軍属の交通事故の情報が1年以上出されず、一方的に提供内容が変更されたり、ドクターヘリのためのレーダー停波も米軍の判断優先ということが明らかとなった。国道へ銃口を向けるような防御訓練がなされたり、やらないとの約束だった「土曜工事」が常態化したり様々な問題が起こっています。

これに対し、市は住民の側に立って米軍や国へしっかりものを言うということができていません。一方的ルール変更を容認しながら、そのことについての市民への説明責任を果たせていません。米軍の数々の特権を定め、事件事故の温床となっている日米地位協定についても、全国知事会がその「抜本的見直し」を提言する中、京丹後市は極めて消極的で、西脇京都府知事の意向にも背を向けています。

市は大前提である「市民、住民の安全・安心」の原点に戻り、米軍防衛省に対して質すべきは明確に質し、求めるべきはしっかりと求める、その上で市独自の施策にも努力することがその当たり前の責務です。

大激戦が予想される4月26日の市長選挙、市議選挙に向け、今の京丹後市が抱えるいくつかの問題について前回に追加しての考えを述べさせていただきました。それぞれの候補者が語る言葉を吟味する上で、皆さんの参考になるならそれに過ぎる喜びはありません。ご意見がありましたらご連絡を下さい。

「京丹後宇川の風」 代表 永井友昭

野の声を市政へ！

大切なのは大きなことじゃない、小さな喜びを積み上げること。

小さくても自立できるハート、自立できる経済、そして信頼できる地域。

※「京丹後宇川の風」は、市政の発展と市民生活の向上をめざす政治団体です。

永井友昭 プロフィール

- ・1957年（昭和32年）、丹後町上野生まれ（62歳）。
- ・下宇川小学校、宇川中学校卒業。※どちらの学校も現在はなし。
- ・1976年（昭和51年）、網野高校卒業。
※高校、大学と日本育英会の奨学金の恩恵を受ける。
- ・1980年（昭和55年）、関西大学法学部卒業 卒業後1年間大阪の法律事務所に勤務。
- ・1984年（昭和59年）～2018年（平成30年）、府立高校の社会科教師として峰山高校、久美浜高校、弥栄分校に勤務。
- ・1996～2006年、久美浜原発問題に関わる市民活動に参加。

※2006 年に関電は計画を撤回。

・ 2013～2020 年、経ヶ岬米軍基地問題に関わる市民活動に参加。

※2014 年暮れより米軍 X バンドレーダー基地が稼働。

・ 2017 年より地元地区の役員。

・ 2020 年、「京丹後宇川の風」代表。

メールアドレス tx-nagai@maroon.plala.or.jp

HP nagai-diary.com

ケータイ 090 3272 3712

